

公1 農林水産業担い手青年の育成に関する事業（令和4年度）

①農業青年プロジェクト活動支援事業（単協） 助成実績
【23団体 886,400円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	西海市青年農業者の会	芋ほり体験による食農教育	中山保育園児との芋ほり体験実施を検討したが、芋の不作により会員だけでの実施となった。今後は圃場の土壌診断の実施をしたい。ほか、「ぎゅぎゅっと！西海フェス」への出店、福岡開催の「農業資材展」の視察研修をおこなった。
2	いさはや4Hクラブ 諫早支部	耕畜連携への取組 上手な耕畜連携を目指して！！	飼料費の負担軽減に向けて、地域主要品目である芋づる、ミニトマト・稲わらでサイレージを作成した。腐敗等もなく、嗜好性も良好。品質面では芋づるサイレージは含水率が高く、水分調整の課題が残った。今後は費用対効果等の検証が必要と感じた。
3	いさはや4Hクラブ 飯盛支部	飯盛地域における新規取組作物の検討 ばれいしょの補完品目の検討	補完品目を検討した結果、冬至カボチャを候補とした。栽培・経営を学ぶため、福岡県産地の視察を行い、栽培技術の基礎や販路確保のコツを学んだ。来年度は栽培試験を行い、コスト・労働時間・収益を評価する。
4	大村市青年農業者会	大村名産「黒田五寸人蔘」の知名度向上に向けた取組（農福連携PRプロジェクト）	黒田五寸人蔘における農福連携導入の検討。親子収穫体験による食育活動、福祉事業所での加工品（人参菓子やニンジンパウダー）の販売、人参の詰め放題等の農福イベントを実施し、消費者に向けたPRを行い、生産者への波及および福祉事業所・消費者への知名度向上を図った。知名度向上を実感できているので、今後も継続してPR活動を続けていく。
5	東彼杵町 青年農業者連絡協議会	農作業等の共同作業による検証について	農作業をシルバー人材へ依頼した場合の件数・作業時間の比較、年間費用を、菊苗定植作業（110a/年）を基に件数・作業時間を算出し比較したところ、共同作業の方が人件費・作業時間も削減できた。（人件費474千円・作業時間270時間の削減）。一人で実施する農作業に比べ、休憩時間の削減、モチベーションの維持等、共同作業が経営の効率があがることがわかった。
6	長崎県三会4Hクラブ	発信と学びの継続による経営・地域発展	SNSや交流による活動発信を行い、農業者組織や消費者との繋がりを強化したところ、新規出荷先の開拓・発展があった（会員の90%）インスタのフォロワー数も増え、若い農業者の様子を広く知ってもらうことはできた。今後は消費者から、若手農業者「集団」の活躍を知ってもらうことが、地域活性化に繋がる可能性があると感じた。
7	島原市安中4Hクラブ	基盤整備地における耕作放棄地の解消	土地改良区内の環境保全のため、耕作放棄地5aを作付け可能な圃場に戻し、土壌分析による施肥設計を行い、にんじんを作付けした。毎年作付けをしている圃場に比べ、量は劣るものの、出荷可能な規格のにんじんを栽培することができた。原因として、残肥があったこと、雑草の発生がほとんど見られなかったことが影響していると考えられる。来年はダイコンの作付けを行うよう計画する。
8	有明町 青年農業者連絡協議会	有明町におけるスマートな労力確保	「日雇いアプリ」を活用し、労力確保の可能性について検証。アプリの雇い主登録で「労災保険未加入」のためエラーとなり、登録ができなかった。有明町の農業において雇用は進まない理由に「労災保険」に対する理解不足があると実感。今後は雇用型農業に取組むため労災保険を学び、アプリを活用し、地域の雇用に対する意識の改革を目指す。
9	吾妻町 青年農業者連絡協議会	代謝プロファイルテストを活用した繁殖成績の向上	効率的な繁殖成績向上を目指すため、飼料分析や血液分析から栄養状態を把握し、飼料給与を見直す「代謝プロファイルテスト」を実施。結果、タンパク質の過剰摂取やデンプンとのバランス不整により肝臓に負担がかかり、エネルギー不足であることが判明した。今後はタンパク質の高い粗飼料を控え、スタンションの繋ぎ時間を延長し、繁殖経営の収益性向上につなげる。
10	千々石町農業研究会	耕作放棄地を利用した有機野菜の栽培	遊休農地の解消を目指し、有機栽培普及を行った。イノシシ対策を行い、ジャガイモの作付けを行ったところ、コンテナ40個ほどの収量となった。次はダイコン・ブロッコリーにも挑戦したい。
11	国見町 青年農業者連絡協議会	耕作放棄地を解消して今後の農業発展に取り組む	耕作放棄地を解消し、農地とねぎ残さの有効活用を結びつけることを目的に活動。国見町内の耕作放棄地の面積は644,342㎡。以上のうち、青年農業者により1,301㎡を解消した。今後は、ねぎ残さ投入後の土壌化学性に及ぼす影響を確認し、作物の作付けができるのか確認する。
12	瑞穂町 青年農業者連絡協議会	廃棄野菜を利用した六次化事業	いちじく、ミカン等でドライフルーツを試作した結果、成功したが粉末化はできなかった。今後は、ドライフルーツの完成度を高め、相性の良い加工品への活用を検討する。
13	南串山町4Hクラブ	「ながさき黄金」普及への道のり ～part6～	春作試験栽培を実施。レタスやブロッコリーの裏作でも病害が発生せず栽培ができたが、収穫時の玉太りは良くなかった。今後は、どういった栽培方法がよいか検討するための試験栽培と知名度アップを目指し、活動を継続していく。
14	深江町4Hクラブ	ひまわりでの耕作放棄地の有効活用	500gのひまわりを確保し、播種した種の9割程度が花を咲かせ、小学校の子どもたちに喜んでもらえた。高齢化もあり耕作放棄地が増えているので、ひまわりによって観光として利用してもらえるようになればと思う。
15	布津町4Hクラブ	ブロッコリー栽培において追肥の有無による比較試験と新品種の選定	既存品種「おはよう」と新品種「MKS-B107」の比較試験（一発肥区・追肥区）を行った。追肥による生育の差は見られず、新品種では空洞やホウ素欠乏といった生理障害が多少見られた。花蕾に関しては、新品種の方がドームの盛りが良く、しまりがあった。引き続き来年も栽培し、調査を続ける。
16	有家町 青年農業者連絡協議会	抑制カボチャの栽培技術の確立	反収向上を目指して、「くり將軍」を用いて8月に播種を行った。播種日を早めたことや、ローテーション防除の実施により、病害虫の発生を少なくした事で、初期成育から果実肥大まで生育良好であったことから収量が増加した。今後は、抑制かぼちゃの他に、消費者ニーズに対応できる多品目にもチャレンジする。
17	北有馬・西有家農青会	かんしょプロジェクト partⅢ	農閑期労力作物としての有効性・収益性・栽培上の課題について検討。定植は4～7月に実施。4月定植のもの太りは早いですが、低温障害のリスクあり。市場出荷では大きすぎるものは価格が安く、保存性も（1ヶ月程度）が好まれるため、種いも・収穫いも保存のための施設が必要と感じた。収益性が高く、需要も高いため、農閑期労力作物として有効である。

18	口之津・南有馬農青会	豆類の連鎖障害対策	試験圃場の土壌分析を実施したところ、pHが基準値よりも高いことが判明。対策として、キュウリとの輪作、太陽熱消毒が有効であることがわかった。来作は連作となるため、今回検討した対策を実施する。
19	加津佐町4Hクラブ	低コストで環境を守る農業へ！	ばれいしょにおいて、化学肥料の使用を削減することによるコスト削減効果を検証。肥料を半量にしたことで、全量と比べ石灰をはじめとした肥料成分が低い傾向となったが、生育の落ち込みや収量の大幅な減少には至らなかった。また、販売額を同等以上に維持でき、肥料コストも900円/10a程度削減することができた。
20	佐世保市青年農業者連絡協議会	みんなで学ぶ小学校での食育活動	広田小学校の生徒と会員の圃場に紅あずま・鳴門金時を植え付け、栽培した。除草作業、収穫をし、収穫後に実食してもらうことによって、食の楽しさ・大切さを理解してもらった。また、SNSにてサツマイモの生育状況や会員の農作業を投稿することで、小学生が日常的に経過観察をすることができた。
21	平戸市青年農業者連絡協議会	2022 食育プロジェクト	生月こども園の園児を対象に、野菜を栽培することの楽しさや達成感を伝えた。また、平戸高校生の生徒を対象に、会員のいちごハウスでの講演・見学を行い、農業の魅力を伝えた。
22	松浦青年農業者会	新ジャンルの果樹栽培(レモン栽培管理)食育活動	R3.3月に定植したレモンを、適切な栽培管理を行いながら、栽培管理と合わせて有害鳥獣対策を行った。また、市内小学校での食育活動(松浦産の牛乳を使用したチーズ・バター・プリン作りやピザ窯でピザを焼くなど)を行った。
23	吉岐市農協青年部	学童農園と農協青年部	食への関心と収穫の喜びを学び、未来の農業後継者の育成ならびに、農業への理解を促進することを目的とし、児童にもち米・イモ・野菜等の作付・収穫を体験してもらった。活動を通して、改めて地域貢献や食農教育に向けた青年組織の在り方・重要性を再認識できた。

②農業青年プロジェクト活動等支援事業(専門部会) 助成実績

【14団体 962,500円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	琴海青年農業者クラブ 作業受託班	地域農業の活性化を目指し農作業サポート隊 (作業受託)波及の体制作り	琴海地域農業維持・農業振興対策のため、ビニール張りの支援活動に取り組み、新規参加者への技術指導等を行った。コロナ禍の影響により予定していた視察研修は実施できなかったため、今後は別の形での視察・勉強会を企画したい。
2	牛丸会	甘草を主体とした添加飼料給与による肥育前期の 肝機能向上試験	月に1度、試験牛と対照牛の胸囲・腹囲の測定を実施中。対象牛が出荷されるまで2年を要するため、出荷まで給与を続け、枝肉重量および肉質成績にどのような影響を与えるか、追って調査を実施する予定。
3	県央青年ポーククラブ	バイオ酵素を用いた良質堆肥製造試験	複合酵素(バイオ酵素T、K)を豚への経口投与及び糞尿に散布したところ、4戸中3戸の農場でのアンモニア量は増加傾向にあった。また、冬場の堆肥の発酵温度が上がったとの意見もあり、本資材の利用により堆肥の発酵が進んでいることが考えられた。効果を確認するため、今後も継続して使用する。
4	牛友会	生産性向上のための実証試験	和牛子牛の初期成長段階での腹づくりを促進するため、市販発酵飼料(ファイバーゲイ)の給与試験を行った。給与後の子牛は下痢等の発生も少なくなり、飼料の摂取量も増加し、順調な増体が確認できた。
5	長崎県茶業青年会	全国茶生産青年茶審査技術協議会の練習及び 競技会出場に向けての技術向上	荒茶の拝見や試飲による練習を行う予定だったが開催中止となったため、県産茶のPRや九州の茶業青年と情報交換など、次年度の出場に向けた活動を実施した。
6	長崎そのぎ茶手揉み 振興会	全国手揉み製茶技術競技大会出場並びに全国揉み 茶品評会に向けての技術向上並びに上位入賞	イベント出店などのPR活動および全国手揉み製茶技術競技大会(26チーム中13位)へ参加など、活発な活動を行った。会員数も増え、今後ますます本町茶業の発展に寄与することが期待される。
7	ながさきグリ茶研究会	緑茶消費拡大の検討と消費者への茶PR活動	させば五番街にて週末にPRイベントを開催し、若年層の集客を図った。今後も県北茶の認知度向上、消費拡大につなげる活動を継続。県外産地視察研修(鹿児島県)では、GAPや有機栽培、品評会に取り組みされている事例を参考に、今後の茶業経営について考えるよいきっかけとなった。また、北松農業高校にてお茶の淹れ方教室を開催し、正しく淹れたお茶のおいしさを体感してもらった。
8	味っ子研究会	西海みかんの将来性を見据えた担い手の資質向上	定期的な生産対策講習会の開催、カンキツ一斉果実分析を請負い、栽培管理の先導的役割を担った。また、カンキツ主産地への視察研修を実施し、他県のカンキツ栽培の現状を知ること産地の次世代を担う生産者として、技術や知識の向上に努めた。
9	県北和牛畜産会	ビタミン剤投与による母牛の繁殖成績改善	R4.10~R5.2までの分娩予定の牛に対し、分娩1ヶ月前・分娩日・分娩1か月後にピタラップAD3Eを20mlずつ投与した。その結果、分娩から種付けまでの日数が前年同期より25日短縮し、母牛の回復も早かった。分娩間隔の短縮により、回転率が上がり受胎もしやすくなることが期待される。
10	べべんこはーと	牛舎におけるバードパンチャーを用いたカラス 対策の実証試験	設置後、牛舎内へ侵入するカラスの羽数が減少(15羽/h→0.3羽/h)、1ヶ月経っても効果が持続(15羽/h→7.7羽/h)。牛舎内のカラス糞による汚損も減少したことから、バードパンチャーはカラス対策として有効であり、地域への波及も可能と判断。
11	園芸部会美作野菜花	ネット販売によるかぼちゃのブランド化	収益を最大限にし、かぼちゃのブランド化を図るためネット販売に取り組んだ。五島の知名度の活用、商品情報、販売野菜に関する豆知識、会社のストーリー性の4点を意識し660円/kgで出品中だが、注文がない状況のため、現在の販売価格が最適であるかは不明。今後は生産者手取りが慣行出荷より若干上回る金額を最低ラインとし、販売価格の検討を行う必要がある。

12	IFFの会	食農教育を目的とした保育園児との農業体験交流	子ども達の農業についての理解を深めてもらうため、甘藷の定植・収穫作業を体験してもらった。今回は、毎日甘藷の生育を見届けることができるように、プランターでの栽培を行ったことで、園児よりイモが成長する過程を毎日観察できて良かったとの声が聞けた。
13	沓岐牛研究会	子牛の販売成績向上	県外の一貫経営農家を訪問し、肥育農家の好む素牛の把握、子牛の飼養管理について意見交換を行った。購買者のニーズを把握することで、今後の子牛飼養管理について考える機会となった。また供試品種シュガーグレイズを用いて飼料作物試験栽培を行ったところ、標準品種よりも乾物収量がやや多く、栄養価も同程度であったため、沓岐に適した品種であると考えられた。
14	長崎かんきつ担い手ネットワーク	持続可能なカンキツ経営に向けた実証試験	植調剤と展着剤の組み合わせによる落果抑制効果を確認できた。また、タイバックの代替資材の検証により、同等の品質向上効果が示唆されたが、耐久性などの更なる調査が必要と感じたため、単年度試験ではなく、継続して調査が必要であると考えた。

③農業青年プロジェクト活動支援事業（九州大会） 助成実績

【3団体 234,000円】

	申請者名	発表内容	発表要旨
1	(プロジェクト発表部門) 大村市青年農業者会 出口大地	農×福連携プロジェクト in 大村	落花生産量向上のため栽培試験を行ってきたが、短期間に作業が集中することにより労力不足の問題が発生したため、農福連携に取り組んだ。まずは農福連携が可能な作業や品目の検討を行った結果、機械化できない人手が多く必要である作業に適する事が分かった(みかんのマルチ張り補助作業、きゅうり・いちごの定植後のポット片付け作業など)課題として、作業の手順マニュアルの作成、トイレの確保・安全性など作業環境の配慮がある。今後は、農福連携による労力補完と、障がい者の働く場の確保を目的に、様々な品目で実証・検討し周知を行う。
2	(プロジェクト発表部門) 松浦青年農業者会 松永将茂	これまでのチーズ作り食育とこれから	会員の自宅でピザ窯を作成、チーズやピザづくりなど食育活動を通じて、小学生の農業への関心を高めながら、地域で活動する若手農業者の認知度向上を目指し活動してきた。会員の減少による負担増、学校とのスケジュール調整等の課題があるが、生徒や保護者、学校からの評価も高く、地域貢献・将来の青年農業者確保に向けて今後も食育活動は継続したい。
3	(意見発表部門) 大村市青年農業者会 川本真平	兄の農業を守りたい	兄の死をきっかけに、5年前に農地を継ぎ就農したが、失敗が続き農業に対する考えの甘さを痛感。知識や技術を学ぶため、先輩農家のハウスに通い勉強。4Hクラブの存在を知り加入、若い農家が多く刺激を受け、やる気へと繋がった。地域では後継者不足で耕作放棄地が増えてきているので、若い人に農業の魅力を伝え、農家の輪を広げていきたい。

④農業青年プロジェクト活動支援事業（地区連） 助成実績

【7団体 982,604円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎地区 青年農業者連絡協議会	堆肥の適正利用による持続的な農業を目指して	全会員の共通事項である、土壌改良について取組を継続、実施。いちご圃場にて化学性および物理性の改善を目的に緑肥を選定し、栽培および、すきこむことで養分バランスの改善（特に集積していたリン酸の減少）がみられた。
2	県央地区 青年農業者連絡協議会	仲間づくりと地域農業への貢献 プロジェクト活動強化による資質向上 ほか	新規就農者の激励会、関係機関・農業士との情報交換など。
3	島原半島地区 青年農業者連絡協議会	プロジェクト活動・消費者交流を通じて会員一人一人の資質向上及び各単位クラブ同士の研鑽に努めるほか	新規就農者激励会の開催ほか、消費者との交流を通して、地元農産物及び地区連活動のPRを図るとともに、消費者ニーズの把握を行った。
4	県北地区 青年農業者連絡協議会	仲間づくりと連携の強化、プロジェクト活動等による資質向上	リモート方式を取り入れ各種活動を実施し、青年農業者相互の交流を深めた。さらに仲間づくりを進めながら、若い力を活かし、地域農業の担い手として協力し連携を深めた。
5	五島地区 青年農業者連絡協議会	会員相互の連携強化のための仲間づくりと、消費者および関係機関との交流を図る ほか	総会・実績発表大会を通じ、会員相互の連携強化のための仲間づくりおよび関係機関との交流を図った。また、プロジェクト活動を通じ、農業経営改善・農業技術向上を目指した。
6	沓岐地区 青年農業者連絡協議会	ながさき黄金産地化プロジェクト	白黒マルチを張らない慣行区・張った試験区を設け、連続10株のつぼ堀りを行い収量調査を行った。慣行区は比較的小ぶりのイモが多く、10ha当たりの収量も2,666kgであったのに対し、試験区はLサイズのイモが多く、収量は3,170kgあり、収量・品質とも白黒マルチ区が良い結果となった。秋の干ばつにより、マルチ区の方は馬鈴薯の肥大期に適度な水分が保たれたことが要因と考えられる。
7	対馬地区 青年農業者連絡協議会	青年農業者の活動および対馬の農業のPR 先進地視察による青年農業者の技術向上	対馬やまねこ空港フェアを対馬市漁業士会と共催で開催。協議会ロゴでTシャツ・法被・のぼりのオリジナルグッズを作成し、視覚的に活動を認識されやすくなった。また、ミニ原木しいたけについては好評で売れた。先進地視察については、コロナ感染拡大のため実施を断念した。

⑤農業青年プロジェクト活動支援事業（県連） 助成実績

【1団体 300,000円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎県青年農業者連絡協議会	クラブ員の意識向上・組織の充実、強化など	生活研究グループとの物販交流や県連活動の協議、活動実績発表会を行った。

⑥青年農業者活動支援事業 助成実績
【1団体 730,000円】

申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1 長崎県青年農業者連絡協議会	九州・沖縄地区および全国青年農業者会議への参加及び運営協力	「全国農業青年交換大会in福岡」へ、本県からは大会実行委員として高柳事務長が運営協力を行った。また大会参加について、各地区連へ周知し同大会へ24名が参加した。

⑦担い手活動促進事業 助成実績
【10団体 2,410,000円】

申請者名	事業内容	活動内容の結果
1 長崎西彼農業者連絡協議会	青年農業者や単位クラブの活動に対する助言指導および将来の担い手育成・確保など	新規就農者激励会・スマート農業研修会・農業者冬季研修会などの開催、農大生の受入など。
2 県央地区農業者協議会	単位クラブの活動に対する助言指導、農大・技術習得研修生の研修受入れ ほか	新規就農者との研修交流会、県農業者研修会、農大生の農家等派遣研修受入など。
3 島原半島農業者会	農業後継者の育成指導、農業・農村男女共同参画を推進し、地域農業の振興発展に寄与する ほか	新規就農者激励会、農大生農家留学研修受入れ、農業者と青年農業者の研修・交流会、島原農業高校地域産業見学など。
5 五島地区農業者会	後継者の育成及び男女共同参画を推進、会員相互の連携協調、情報交換の強化 ほか	農業者会の各種活動が計画的に再開されたことに合わせて、研修会などへの参加による研鑽に努めた。
6 杵岐農業者協議会	研修受入れ・新規参入者への助言等、将来の担い手育成を積極的に行う ほか	女性農業者の集い、和牛共進会、県連交流会、漁業者との交流など。
7 対馬市農業者会	新しい経営、技術等の率先実行による先導的農業経営の実現と地域への波及を図る ほか	各種研修会（対馬市農業者会・九州沖縄農業者会・長崎県農業者連絡協議会）への参加。島内研修会においては、中対馬エリアの牛舎や圃場を訪問視察し、経営内容・方針について意見交換を行った。
8 JA長崎県女性組織協議会	食・農・地域を豊かに、組織・メンバーの活性化、JA運営への参画・JAとのパートナーシップの強化	仲間や地域との繋がりを絶やさぬよう、活動の再開を図った一年となった。加入推進運動、次世代のリーダーの育成、JA事業と連携した取組など。
9 長崎県農協青年部協議会	次世代のリーダーの育成、青年部盟友の所得向上広報活動の強化	WEBを併用した活動の開催、実参者を増やすなど青年部活動の歩みを止めることなく、JAリーダー養成研修会の開催、九青協農業経営対策研修会への参加、JA青年部組織の理解醸成などを行った。
10 長崎県農業者連絡協議会	就農希望者の円滑な就農と経営の安定、発展に向けた指導支援、技術の指導を行う ほか	九州・沖縄農業者研修会、農業者研修会、JA杵岐市が目指す担い手育成の取組み、現地視察等、農林水産省幹部との意見交換会など
11 長崎県農業高等学校 農業後継者育成連絡協議会	農業への興味や農業高校への進学意欲を高めるため、中学生を対象に就農意欲喚起体験入学・説明会を開催する	体験入学を開催。畜産体験ツアー、動物ふれあい、介護実習体験、培地づくり、ドローン操縦体験など、実験実習体験や施設見学を行った。4校で697名の参加があった。

⑧漁業者等実践活動支援事業（定額） 助成実績
【1団体 2,740,000円】

申請者名	事業内容	活動内容の結果
1 長崎県漁業者連絡協議会	漁業者会が実施する活動等に対する支援（各地区漁業者会が行う実践活動及び視察研修、学習会等に対する支援）	他地区の漁業者及び異業種との交流、漁業技術に関する学習会の開催、魚食普及イベント等の開催及び参加、水産教室の実施（県下59回）及び視察研修を実施した。

⑨漁業者等実践活動支援事業（グループ活動支援） 助成実績
【1団体 150,000円】

申請者名	事業内容	活動内容の結果
1 美津島西海漁業協同組合 青壮年協議会	青壮年協議会が実施する活動の支援	養殖クロマグロのPRのため県外のイベントに参加し、クロマグロの解体ショー、試食提供を実施した。（計3回）